

大賞

東京都／35歳／女性／教員

ごとう りな

後藤 里奈 様

✉手紙の相手：亡き親友

「芯が強く、周りに流されないとこころが向いていると思うよ。」

親友のあなたにそう言われ、背中を押された私はその後奮起し、一年後、私たちは「教師になる」という夢を共に叶えることができましたね。でも、その喜びがあんなにも早く奪われてしまうとは思いませんでした。

忘れもしない二〇一一年三月十一日。あの日私は春から勤務する都内の高校で研修を受けており、あなたは地元岩手の学童でボランティアをしていました。その最中に起きた未曾有の大地震と津波。あなたは「早く逃げろ」という町の人々の声には一切耳を貸すことなく、最後まで子供たちの誘導にあたっていたそうですね。そして無事にすべての子供たちを避難させた直後、津波に襲われてしまいました。どんなに無念だったでしょう。怖かったでしょう。悔しかったです。想像するだけで、今も胸が張り裂けそうになります。

私はしばらく、深い悲しみから立ち直れずにいました。でもある時、今まであなたに貰った手紙の数々を読み返して気づいたのです。「私はまだ、立派な教師になるという友との約束を果たしていない。遺された者として、私にはこの約束を生涯かけて守っていく使命がある」と。

あれから十二年。私は今も日々奮闘しながら生徒たちと向き合っています。心が折れそうになる度、「えっちゃんの分も頑張らなければ」と自分自身を奮い立たせています。二人の約束は、私たちの終わりなき挑戦でもあるのです。あの日あなたが救った子供たちは来年、高校卒業の年を迎えます。命懸けで自分たちを助けてくれた新米先生のことを、彼らは一生忘れないでしょう。津波に襲われた私たちの故郷には、毎年桜の樹が植えられ、今では立派な桜並木となっています。そちらから見えていますか？私はこれからも、残りの教員人生をしっかりと全うし、命の大切さを伝えていきます。だから見守っていてね。

✉手紙への想い✉

青春時代、同じ夢に向かって頑張ってきた友人に感謝の想いと自分の決意を伝えたいと思いました。